

このほんしってる？

5・6年生

ここに紹介した本は、図書館にあります。

読みたい本がみつかったら、厚木シティプラザ3階
 こどもの本のフロア、依知北・睦合北・小鮎・荻野・
 森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館に来て
 ください。移動図書館「わかあゆ号」でも、借りられます。
 本は、ひとり10冊、2週間まで借りられます。
 読みたい本が貸出中のときは、予約をしてください。



2021年

 厚木市マスコットキャラクター
 あゆま回

5・6年生 よみもの

『まっしょうめん！ 胸を打つ勇氣』

あさだ りん／作 新井 陽次郎／絵 偕成社

6年生から剣道をはじめた成美は、試合に出てもなかなか一本がとれません。どうしたら一本がとれるのか考えていると、同級生の太一から「監督に言われたことだよ。」と言われました。監督はいつも「まっすぐに打て」と。成美は、まっすぐに打てば一本がとれるのか考え始めます。成美は一本がとれるのでしょうか。



『ゆりの木荘の子どもたち』

富安 陽子／作 佐竹 美保／絵 講談社

ゆりの木荘は百年前に建てられた洋館でした。今は「優良老人ホーム・ゆりの木荘」です。ホームに住んでいるサクラさんが、ある歌を歌い始めると、玄関ホールの振り子時計の針が、ぐるぐると猛スピードで逆回りを始めました。そして気がつくと、サクラさんは87歳から10歳になっていました。

『となりのアブダラくん』

黒川 裕子／作 宮尾 和孝／絵 講談社

6年生となった4月、ぼくらのクラスに転校生がきた。パキスタンからきたアブダラくん（本当はちがう名前だけど）。イスラム教徒のアブダラくんには、1日5回のお祈り^{いの}など、決まりがある。ぼくはアブダラくんのめんどうを見る係になった。それいらい、ぼくは、ふりまわされっぱなしだ。



つきしろあおふねやま 『月白青船山』

朽木 祥／作 岩波書店

夏休み旅行の予定がなくなって、兵吾^{ひょうご}と主税^{ちから}の兄弟は、鎌倉^{かまくら}の大叔父^{おおおじ}さんへ預けられることになった。そこで、静音^{しずね}という女の子と知り合った。静音と3人で、切り通し^{きとお}という、鎌倉時代からある坂道で遊んでいたところ、時代劇のセットのような谷^{まよ}に迷い込んでしまった。そこは、800年以上昔の「星月谷^{せいげつだに}」だった。

『星を見あげたふたりの夏』 シンシア・ロード／著

吉井 知代子／訳 丹地 陽子／絵 あかね書房

リリーの目の見えない飼犬^かラッキーが、ブルーベリーの畑^にへ逃げた。収穫期^{しゅうかくき}に出稼ぎ^{でかせ}にくる家族の子のサルマがつかまえて、二人は友達になった。気おくれする性格^{せいかく}のリリーと前向きなサルマが、ラッキーの目の手術^{しゅじゆつだい}代や学費^{がくひ}という、それぞれの目的のために、あるコンテスト優勝^{ゆうしょう}へ力を合わせる。



『からくり探偵団 茶運び人形の秘密』

藤江 じゅん／作 三木 謙次／絵 KADOKAWA

「あの猫、つかまえて！」と少女風花^{ふうか}に頼まれ、いっしょに猫^{ねこ}を追うことになった小学5年のタクミと草介^{そうすけ}。猫^{ねこ}がからくり人形の手をくわえて逃げたのだ。3人が猫^{ねこ}を追って入った家で、おばあさんとその土地^ちをねらうあやしい男^{おとこ}に遭遇^{そうぐう}。からくり人形と下町の土地^ちをめぐる事件^{かいげつ}を解決^{かいげつ}できるか。登場するからくり工作の作り方も掲載^{けいさい}。



5・6年生 しらべる・あそぶ

『言葉はなぜ生まれたのか』 岡ノ谷 一夫／著

石森 愛彦／絵 文藝春秋

子供のころから生き物と音楽が大好きだった著者は、大学で鳥の歌の研究を始めました。すると、ジュウシマツの歌の中に、人間の言葉とよく似た共通点を見つけ…。親戚から歌を教わる鳥、ウソ泣きができないネズミなど、動物の研究から言葉の生まれた謎に迫っていきます。なぜ人間は言葉話すのでしょうか？著者と一緒に考えてみては。



『虫のしわざ図鑑』 新開 孝／文・写真 少年写真新聞社



虫が葉などを食べるとかじったあとが残ります。それが「虫のしわざ」。この本では、「虫のしわざ」を「あみあみ」「かじかじ」「すけすけ」など、見た目からわかりやすい言葉で分類して紹介しています。校庭で見つけた変な形や状態の葉は、実は「虫のしわざ」によるものでは？ この本で、犯人の虫をつきとめましょう。

『元号ってなんだろう 大化から令和まで』 宮瀧 交二／監修

おおつか のりこ／文 藤原 ヒロコ／絵 岩崎書店

元号は、お金やだいたいな書類の日付など、生活の中にあられています。使われはじめたのは「大化」で、「令和」までの期間は1300年以上です。248ある元号の中で、多く使われた漢字のランキングや元号迷路クイズもついています。楽しみながら元号を知りませんか。



『熊本城 復活大作戦 地震から二十年かけて進む道のり』

佐和 みずえ／著 網田 龍生／解説 くもん出版

2016年4月、九州の熊本に、震度7の地震が起きました。400年以上前に、加藤清正という武将が築いた熊本城も、石垣がくずれ、天守閣のしゃちほこが落ちてしまいました。熊本城の修復には、20年かかると言われています。修復はどのように進められているのでしょうか。

『101のビジュアル・イリュージョン』 サム・タブリン/文

マット・ダーバー、ヤスミン・フォークナー、ハンリ・ヴァン・ワイク、
ステファニー・ジョーンズ/絵 東京書籍

不思議だね。波形の線が並んでいるだけなのに、まるで波がうねっているように見えるなんて。そんな目の錯覚を使った「だまし絵」が101種類紹介されている。なぜ、錯覚してしまうのか、しかけも解説されている。「だまし絵」を見て楽しむだけでなく、作ってみよう。



『ごみ育 日本一楽しいごみ分別の本』

滝沢 秀一/著 太田出版

みなさんがごみをすてるときは、まず「燃えるごみ」、「燃えないごみ」と分別をしていると思います。「このごみはどっちかな？」とゴミの分別で迷ったことはありませんか。この本はそんな迷ってしまう身近なごみを、クイズ式でしょうかいしています。楽しくおぼえて、日本一のゴミすて小学生になろう！

*中央図書館 3階 こどもの本のフロアのご案内

3階の開いている時間

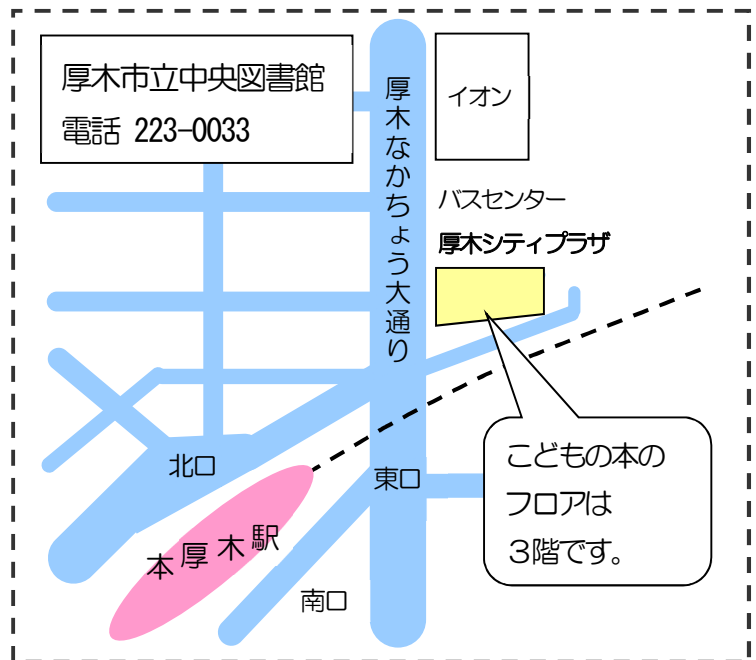
午前9時から午後5時まで

お休みの日

しせつほしゅび
施設保守日

年末年始

本の整理のとき ほか



図書館は、バスセンター南側の厚木シティプラザの中にあります。